

赤谷プロジェクト近況報告

「環境教育・関東ミーティング 2008 AKAYA」の開催



挨拶をする小林局長

冒頭に実行委員会委員長の（財）日本自然保護協会・横山常勤理事と関東森林管理局長の挨拶があり、NPO法人日本エコツーリズム協会理事で「観光カリスマ」の山田桂一郎氏からエコツーリズムの目的や進め方などについて刺激的な講演が行われました。

その後、藤江計画部長、（株）八ヶ岳高原ロッジ取締役営業企画部長の高品武志氏、NPO法人ねおす専務理事の宮本英樹氏の三氏がそれぞれ話題提供を行い、環境教育関係者やエコツーリズムをテーマとして、その地域の環境をどのようにマネージメントするのか、関係者間の連携・調整・合意形成の難しさなどについて話し合いが行なわれました。

二日目には六つの分科会が開催され、赤谷センターが企画した分科会「里山の森における環境教育～行政の役割を探る～」では、松本指導普及課長、京都大学大学院深町准教授、及び（独）森林総合研究所多摩森林科学園大石グループ長によりテーマに沿った話題提供とディスカッションが行われました。

その中で、「地域の住民が意外と身の回りの里山の歴史や森林について関心が低く、環境教育が果たす役割は大きい。」「環境教育に携わる関係者間の地域ネットワークの形成を支援していくことに行政の果たす役割があるのではないか。」また、「環境教育に携わる各主体がそれぞれ役割分担と目標を明確にして環境教育に取り組んでいくべき。」など、活発な意見交換がありました。



3日間を振り返って、グループ討議

11月28日（金）から30日（日）にかけて、「多様な自然の気づき方、伝え方、エコツーリズムへのつなげ方」をテーマに「環境教育・関東ミーティング2008 AKAYA」を同実行委員会が主催、（財）日本自然保護協会、関東森林管理局及び（社）日本環境教育フォーラムが共催、環境省、群馬県、みなかみ町等が後援、赤谷プロジェクト等が協力して開催し、130名を超える環境教育関係者が参集しました。

この環境教育関東ミーティングは、関東周辺で環境教育活動に取り組む関係者が環境教育に関する情報共有・研修・交流する機会として、平成16年度から開催され、今年で5年目となります。

冒頭に実行委員会



全体会での熱心な質疑応答



自由発表の様子

その他、関東森林管理局・赤谷センターの企画で「森林教室～これからの営業・推進ポイント」、「いきもの村」に棲むムササビの観察記録、「いきもの村」を例にしたボランティアセンターの作り方・難しさ、「美しい森林づくり推進国民運動」などの自由発表やオプションプログラム、パネル展示を行いました。

今回のミーティングにおいて、関東圏で活動する環境教育に取り組んでいる幅広い関係者が交流を深め、その経験や知見について学ぶことができ、参加者から今後自らの活動に反映していきたいとの大きな反響がありました。これらの成果は、赤谷プロジェクトの環境教育の取組の中でも活かしていきたいと考えております。